

読み終わったら保護者の方にも読んでもらいましょう。

生徒部だより

宮城県小牛田農林高等学校
第4号
平成30年5月16日

考えよう！SNSの使い方



5月10日（木）にネットトラブル防止教室が行われ、遠田警察署生活安全課の方から講話をいただきました。講話の中には、みなさんがSNSを使用するうえでとても大切なことがたくさん含まれていました。残念ながら、本校でもSNSによるトラブルが、ここ数年増えてきています。「自分は大丈夫」と思わずに、「自分にとって身近なこと」として考えてください。

～ケータイ・スマホへの依存～



「ケータイ・スマホへの依存」とは、ケータイ・スマホが手元がないと不安な気持ちになり片時も手放すことができないといった状態や、ケータイ・スマホに束縛され振り回されている状態をいいます。厚生労働省が2013年8月に発表した調査によると、全国の中高校生のうち推計51万8千人（約8%）が「インターネット依存」とのことです。

依存や束縛状態には、

- ケータイ・スマホを置き忘れて手元がないと、不安で何もできなくなる
- 授業中にケータイ・スマホを取り上げられると暴れる
- ケータイ・スマホを見るために仮病を装ってでも保健室へ行く
- 調べ物、時計、スケジュール管理などあらゆることを携帯の機能に頼りケータイ・スマホがないと何もできない
- ケータイ・スマホの利用時間が長い（1日5時間以上など）
- 「5分ルール（※）」のため、風呂やトイレにまでケータイ・スマホを持って行く
- 食事中や勉強中も手放さない

といった例が挙げられます。 ☆みなさんは、いくつ当てはまりましたか？

※「5分ルール」とは、友人同士「お互い心配させないために、メールの返信は5分以内にしよう」と子ども同士で決めるルールです。一見お互いのことを思いやるルールですが、実際には相手の生活や行動に配慮せず「返信を強要する」ルールになっています。このため、返信が遅れて仲間外れにされる事例が発生しています。また、具体的にこのようなルールを作らない場合でも「返信しないと相手に悪いのではないか」と考えたり、返信の早さややりとりの数に意義を感じて、片時もケータイ・スマホを手放さず風呂に持って入ったり、家族との食事中も常にメールに返信していたりするなどの「依存状態」の子どももいます。なお、最近の無料アプリでは「10秒ルール」と言われるくらい、さらに依存度を増しています。

☆みなさんに心当たりはありませんか？

【岡山県県民生活部男女共同参画青少年課のサイトより抜粋】

読み終わったら保護者の方にも読んでもらいましょう。

〈警察庁〉子供のSNS被害最多「自撮り」増加 17年

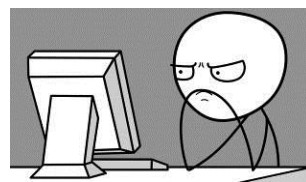
インターネットで交流するソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を使い、2017年に犯罪に巻き込まれた18歳未満の子供は1813人（前年比77人増）で、5年連続で最多を更新したことが警察庁のまとめで26日、明らかになった。

犯罪種別では淫行（いんこう）など青少年保護育成条例違反の被害が702人と最も多く、児童ポルノ570人▽児童買春447人―などが続いた。強制性交と強制わいせつの被害者も40人いた。児童ポルノの大半は、脅されたりだまされたりして自分の裸の画像を送信させられる「自撮り被害」だった。

被害者の96%は少女で、年齢別では多い順に16歳447人▽17歳417人▽15歳388人▽14歳277人▽13歳197人。12歳以下も87人いた。13歳（前年比29人増）と15歳（同65人増）が増加傾向にあり、自撮り被害が増えたことが影響したとみられる。

最年少の被害者は8歳の少女で、容疑者がユーチューブで公開したアニメ動画をきっかけにSNSでやりとりするようになり、裸の写真を送信させられた。

被害に遭った子供が最も多く利用していたのは、短文投稿サイト「ツイッター」で695人（前年比249人増）。次いでチャット型交流サイト「ひま部」181人（同104人増）▽無料通信アプリ「LINE」105人（同19人減）―などだった。



～SNS上の犯罪から身を守るためにできること～

書き込まない

異性との出会いや援助交際を募るような書き込みはしない

掲載しない

氏名や住所、学校名などの個人情報、自分や友だちの写真を安易に載せない

会わない

ネット上では別人になりすまし、言葉巧みに信用させようとする人がいるので、サイトで知り合った人とは会わない

※警察庁による

【4月26日 毎日新聞】